

在シドニー総領事通信
第 56 回 ハンター地域視察

令和 4 年（2022 年）2 月 10 日



空から見たニューカッスル港（2022 年 1 月 31 日）

NSW 州最大のワイン生産地、ハンター・バレーに行かれたことはありますか？この地域は州内屈指の炭鉱・産業地域としても有名で、水素ハブなど新たな産業開発にも取り組んでいます。先月末、NSW 州投資庁（Investment NSW）の招待で、山上信吾駐豪大使が率いる日本政府関係者の一員としてハンター地域を視察しました。シドニーからは、高原正樹日本貿易振興機構（JETRO）シドニー事務所長や片山弘行石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）シドニー事務所長も参加しました。山上大使は「[南半球便り（その 55）](#)」で早速報告しています。

今回の総領事通信では、ハンター地域の様々な産業についてご紹介し、今後の同地域と日本との関係強化について、皆様と一緒に考えたいと思います。



ハンター地域経済団体との朝食会（2022年1月31日）

●ハンター地域経済団体との朝食会

ハンター地域の中心都市ニューカッスルは、シドニーから北に車で約2時間半です。[同市と山口県宇部市との姉妹都市40周年行事出席](#)以来、約1年振りに訪問しました。週末に移動し、月曜日は朝から晩まで盛り沢山の日程でした。

最初の行事は、今回の訪問受け入れをアレンジしたハンター地域経済団体の幹部との朝食会です。最近の状況を伺ったところ、ニューカッスルは、大都市シドニーの陰にあり目立たなかった時代から、様々な産業分野で世界と直接つながり大きく発展する時代へと、雰囲気が大きく変わってきたとのこと。

このような変化を内外に広く発信するために、地元のメディア会社 Out of the Square は、ハンター地域の幅広い産業の全体像を紹介する動画を先般作成しました。今回の訪問に合わせて[この動画の日本語版](#)も作成し、席上披露されました。日本への熱い期待と今後のビジネス協力の大きな可能性を感じさせる力作です。わずか3分半の動画ですので、是非ご覧ください！（[こちら](#)をクリック）

THE HUNTER HYDROGEN FUTURE

PREPARE AND PILOT – 2021-2025

- Projects that enable the advancement of hydrogen infrastructure, production, storage and delivery
- Translate emerging hub elements to promote demand and supply opportunities for industry, technology and expertise
- Validate technical and operational performance through demonstrations and pilots
 - Prepare industry and workforce participation

DEPLOY AND SCALE – 2025-2035

- Advance local production, transportation, utilisation and export in two stages to scale
- Optimise common use infrastructure and focus on larger scale deployment of electrolyzers aligned to industries with higher demand applications
- Drive coordinated and strategic mechanisms to accelerate investment opportunity and industry decarbonisation objectives to scale
 - Communicate 'wins', scale and broaden industry, workforce and community participation elements

PROSPER 2035 +

- Further aggregate demand and supply, and increase export opportunities
- Leverage established industry confidence to drive a diverse suite of industry applications across P2X and hydrogen such as green steel manufacturing and power generation
- A thriving HETS sector delivering advanced technology solution and applications beyond the Hunter including exports

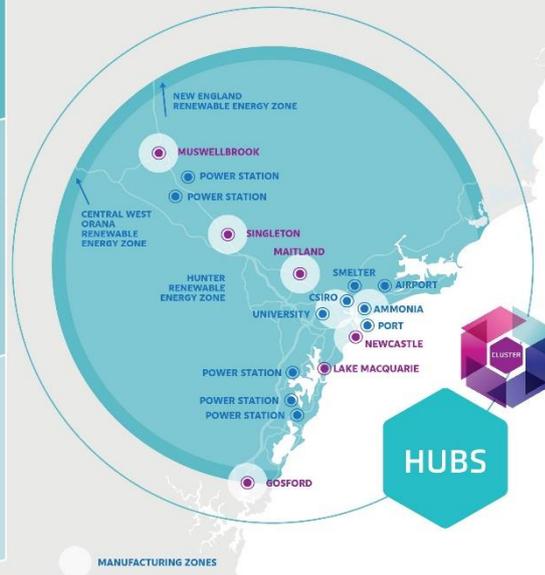


Figure 3. Hub and Cluster unlocking the potential uses of hydrogen.

13 | Hunter Hydrogen Taskforce - Roadmap

ハンター水素ロードマップ（2021年11月策定）

●ハンター水素ハブ

引き続き、ニューカッスル港湾会社へ移動し、窓から港を見渡せる役員会議室で、ハンター地域の水素開発に関するブリーフィングを受けました。ハンター地域は、豪州連邦政府が支援している[7つの水素ハブの1つ](#)で、NSW州政府が本年10月に発表した[NSW州水素戦略](#)でも州内の3つの水素ハブの1つに位置づけられています。

ニューカッスル大学を中心に産官学で組織したハンター水素タスクフォースは、昨年11月、2021年から2040年までの[ロードマップ](#)を作成しました。今回、このロードマップの主要執筆者陣によるプレゼンを受けて、日本との連携強化に向けての意見交換を行いました。ハンター地域で炭鉱を運営する出光豪州もこの水素ハブの取組に参画しており、同社の宇山史剛社長に同席いただきました。

ハンター水素ハブは、港湾、発電所、工場など様々な産業インフラと、そこで働く多数の技術者、そして大学の研究・教育施設を容易に活用できるのが強みです。今後、日本企業がこのような情報や機会を最大限に生かすことを願っています。



ニューカッスル港の石炭積み出し施設（2022年1月31日）

●エネルギー移行に向けての取組

次に、ニューカッスル港の全容をヘリコプターの機上から視察しました。私は高原 JETRO 所長、片山 JOGMEC 所長とともに、港内の埠頭、石炭積み出し施設や将来の水素関連施設予定地、市街地やスポーツ施設、内陸のアルミ工場や南北に広がる海岸線などを、半時間かけて空からじっくりと眺めることができました。

降機後に、石炭から水素への移行の見通しについて質問しました。ニューカッスル港湾会社によれば、ハンター地域の石炭は高品質なので、世界の石炭生産量が減少する中でも高い競争力を保ち、輸出水準を維持できる由です。従って、ニューカッスル港では「移行」というより「多角化」を目指しているとのことでした。

引き続き、エネルギーをテーマにした昼食会に参加しました。ニューカッスル市長や連邦・州議員、州政府高官他が出席する賑やかな会合で、石炭、水素、リチウム電池、新エネルギーハブなど、ハンター地域におけるエネルギー分野での様々な取組や投資機会が紹介されました。



オリカ社のアンモニア製造工場視察（2022年1月31日）

●アンモニア製造工場

午後は最初に、ニューカッスル港の一角にある[オリカ社のアンモニア製造工場](#)を視察しました。現在、南豪州からパイプラインで天然ガスを引き込み、アンモニアや硝酸アンモニウムを生産して、ハンター地域の炭鉱採掘に使用する爆薬を供給しています。

今、アンモニアは脱炭素時代の新たな燃料として注目されています。オリカ社でも、従来方式で発生するCO₂の処理・活用によるブルーアンモニアの製造、太陽光や風力など再生可能エネルギーを使ったグリーンアンモニアの製造など、様々な実験や研究を既に始めているとのことです。

例えば、豪州スタートアップのMCi社は、発生するCO₂を吸着して建設用資材などの原材料を商用生産する実験を始めており、数年内にこの工場に実証施設を設置予定とのことです。MCi社には伊藤忠商事が出資して日本での展開も想定しており、「技術を通じた脱炭素」の日豪協力の一例となっています。



ニューカッスル空港での防衛航空産業ブリーフィング（2022年1月31日）

●防衛航空産業

その後、ニューカッスル空港に移動し、防衛航空産業に関するブリーフィングを受けました。ニューカッスル空港は、ウィリアムタウン空軍基地に併設されている軍民共用空港で、隣接する場所に NSW 州の防衛航空産業新開発特区が計画されている他、滑走路の拡張も予定されています。

それに先行して、ニューカッスル市及び隣接のポートスティーブン市によるアストラ・エアラブ地区の開発が既に進んでいます。この空軍基地には F-35 が配備されており、BAE システムやロッキード、ボーイングも既に同地に拠点を構えています。

日豪や日米豪の防衛・安全保障協力が進展する中で、日本の防衛航空産業にも豪州での新たな機会が生まれています。この分野での日豪の新たな協力が、この地で生まれることを期待しています。



アンプコントロール社で開発した家庭用水素電池ユニット（2022年1月31日）

●電子機械産業

以上述べたように、ハンター地域には様々な産業基盤があるので、電子機械産業も発展しています。この分野の代表的企業である[アンプコントロール社を訪問](#)して、脱炭素化・再生可能エネルギー関連の技術開発を視察しました。

例えば、同社はニューサウスウェールズ大学と協力して、家庭の太陽光発電から水素を製造して貯蔵するユニットを開発しました。製造した水素は常温で金属に吸着して安全に保管でき、必要分だけ活用することが可能です。

その他、コロナ治療用の呼吸器、鉱山用の電気自動車、移動式で自立型の太陽電池や浄水装置まで。社会課題解決のために、持ち前の技術を大いに活用しています。約50年の歴史を持つ会社ですが、大学とも協力しながら、商業ベースでスケールアップできる技術を次々と開発していることに強い印象を受けました。



ハンター・バレーのレオゲート・ワインのブドウ畑（2022年1月31日）

●ハンター・バレーでのビジネスタ食会

アンプコントロール社の視察後、山上大使はヘリコプターで、私たちは車でハンター・バレーに移動し、ワイナリーでのビジネスタ食会に出席しました。シドニーからも、多くの日本企業現地法人の社長が参加しました。

[ハンター・バレー](#)は豪州で最も歴史のあるワイン生産地です。私自身、これまで仕事で1回、観光で2回行きましたが、120以上のワイナリーがあり、各々が独自の哲学とこだわりを持ってワインを作っていることに強い印象を受けました。

今回は、[レオゲート・ワイン](#)のレストランで、50年以上前に植栽されたブロークンバックのブドウ畑のワインと食事を楽しみ、ニューマン代表、山上大使、NSW州観光局長他の講演を聞きながら、ハンター地域と日本のビジネスマンがネットワーキングを行う有益な機会となりました。この場で日本とハンター地域の両商工会議所会頭が話し合い、次回は日本企業によるハンター地域の視察を検討することになりました。



日本大学ニューカッスルキャンパス予定地（2022年2月1日）

●日本との関係強化に向けて

翌朝、在ニューカッスル日本企業と山上大使の意見交換を行いました。発電用の石炭を輸入している四国電力、石炭の輸送を担っている日本郵船、現地の部品製造会社を買収した日立建機、現地の住宅会社を買収した旭化成ホームズが、ニューカッスルに駐在員を配置しています。

意見交換では、ニューカッスルが生活をするのに大変快適な地域で、地元の人たちも気質が良くて接しやすく、日本に対して温かいとの話がありました。また、豪州は法制度が明確で法治主義が浸透し、広大な土地が存在し、日本との時差がほぼないなどビジネス上のメリットも多いとのことでした。

間もなく日本大学のニューカッスルキャンパスが開校することも話題になりました。[昨年夏予定の開校](#)は延期されましたが、校舎は既にほぼ完成していました。短期語学研修やニューカッスル大学との学生交流、共同研究、教員交流の拠点となり、学生寮は最大100名の宿泊と食事が可能とのことでした。早期に開校して、日本から多くの学生がニューカッスルに留学することを期待しています。

今回のハンター地域訪問で、日本との関係強化に向けての新たな機会が大きく開かれたように思います。今後、幅広い分野で日豪ビジネスが拡大するとともに、観光や留学など様々な交流が発展するよう願っています。その実現に向けて、私も最大限努力していく決意です。皆様も、ニューカッスルやハンター・バレーに是非お越しく下さい！

在シドニー日本国総領事 紀谷昌彦

(以上)